



CAGLIERO 11

カリエロ



191 2024年 11月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



カリエロ11の 読者の皆さん、

現代社会の私たちは、あたかも自分たちが決して死ぬことがないかのように生きています。私たちは人生のさまざまな側面を意識していますが、ほかのことに気を取られています。その側面には苦しみ、死があり、私たちはそれが存在すると知っていますが、自分に降りかかるまで注意を払おうとしません。

死は人生の一環で、生と対(つい)をなしています。創り主がその知恵のうちにすばらしく計らわれたものです。私たちは、若く健康なあいだは死や苦しみについて考えませんが、遅かれ早かれそれはやって来る、それが地上の生のダイナミズムです。子を持つ親になる体験(肉親として、あるいは霊的に)をした人であれば誰でも、子どもを亡くす痛みがわかるでしょう。

わが子を亡くした親たちのために、主に祈りましょう。復活のなぐさめが、心に安らぎを与えてくれま

■ DON BOSCO
NEL MONDO 基金
代表 アルベルト・ロドリゲス・
マルモル, SDB

2025 宣教の年に向かう旅



2025年は、聖年、第29回総会の年であることに加え、第一回サレジオ会宣教派遣の150周年を祝う年になります。最初のサレジオ会宣教師たちがアルゼンチンに向けて出発したのは、1875年11月11日でした。それ以来、サレジオのカリスマは広がり続け、**世界の137か国**へもたらされました。

この祝いを、どうすれば最大限に生きることができるでしょうか？

150周年は主に管区レベルで祝われるので、多くの管区はしばらく前から準備を進め、歩みや取り組み、活動を提案しています。選ばれたテーマは、取るべき方向を示しています：**感謝をささげ、再考し、再び歩み出す**。これまでを振り返り、どれほど善いことが行われてきたかに目を向けるだけでなく、**今日、「宣教」が何を意味するか**を再考し、将来の取り組みに向けて自分たちを方向づけるためにも、この祝いをよく活かしましょう。

150周年は、2025年11月11日に頂点を迎えます。トリノの扶助者聖マリア大聖堂で、総長臨席のもと、第156回宣教派遣におけるサレジオ会員の派遣をもって、サレジオ会の宣教への取り組みが新たにされます。この機会に、新宣教師の研修、オリエンテーションである10月の「ジェルモリオ」コースを開始しているサレジオ会員に加え、管区宣教促進担当者の世界会議が**11月9日から13日**に開かれ、一方、11月の8、9日にはイタリアの若者たちのための宣教促進の集いが開催されます。若者に向けたプログラムの中、若者への宣教の委託が行われます。11月13日には、最初の宣教師たちが出発した港のあるジェノバを訪れる企画があり、宣教派遣博物館が開館します。

そのほかの主な行事として、サレジオの宣教論専門家と神学者による二回にわたる円卓会議があります。サレジオ・ミッションの再解釈を進める具体的な機会となるでしょう。

さらに、特別版となる来年の**サレジオ宣教の日**は、たくさんの興味深い考察と共に、この150周年を深める助けとなるでしょう。

乞うご期待！

■ 宣教部門事務局長
マルコ・フルガロ

振り返りと 分かち合いのために

- この150年をふりかえり、サレジオの宣教師に感謝したいことは？
- サレジオの宣教事業を、私はどのように再考し、再び歩み出すことができるだろうか？



Cagliari 11 (カリエロ11) の全バックナンバー : <http://salesians.jp/library/cariero>

わが子を亡くした両親と連帯する ブラジルのサレジオ会員



ティアゴ神父様、南米サウスコーン地域の宣教促進地域コーディネーターとして、宣教という視点から、地域のいちばん好きな点を教えてくださいませんか？

南米サウスコーン地域のサレジオ会宣教事業で私がいちばん好きな点は、それぞれの国に見られる豊かさ、文化の多様性です。でもそのことから、絶えず対話に取り組むこと、適応する柔軟性、違いを尊重することが求められます。若者たちの力強さと希望、共同体の活力も、大きな喜びを与えてくれます。サレジオのカリスマが、この地でどれほど生き生きと存在しているか、示しているからです。さらに、先住民族や農村部の地域共同体、都会の辺縁に暮らす人々など、最も弱い立場の人々への献身は、私たちの宣教事業の核心に深く触れるものです。南米サウスコーン地域は、大いなる挑戦を投げかけながら、同時に、サレジオ・ミッションを生きるすばらしい機会も差し出します。実に多様な状況における宣教事業の力強さを目にするのは、私にとってこの新たなミッションの最大の喜びの一つです。

今月、私たちは特別に子を亡くした親たちに目を向けます。このデリケートな問題に関して、ブラジルではどのような状況がありますか？

ブラジルでは残念ながら、このことが主要な社会的悲劇となっています。暴力や殺人、交通事故、そして増大する精神衛生の危機のため、数え切れないほどの家庭が子を亡くす痛みに直面しているのです。新聞報道によると、ブラジルではこの3年間に、1万5千人以上の子ども、若者が命を落とし、その9割が男の子です。親たちは、子を亡くした痛みに加え、しばしば社会的孤立のなかで生きて行くこととなります。また、暴力の蔓延という背景のもと、特に犠牲者が社会の辺縁の子ども・若者であった場合、しばしばこういった家庭を疎外する社会は、無関心と偏見のうちに沈みながら悪化していきます。また、子どもの自殺に直面する家庭も忘れてはなりません。タブーや誤解に覆われた問題です。

サレジオ会は、何らかの具体的な形でそのような親の支援に関わっていますか？

ブラジルのサレジオ会は教皇フランシスコの呼びかけに加わり、子を亡くした両親に寄り添い、連帯します。祈りのうちに、その母親、父親たちをなぐさめてくださるよう、神に願い、流される涙の一粒ひとつぶ、痛みの叫びの一つひとつを心に受けとめます。同時に、ブラジルの6つの管区は、より正義に適った、兄弟愛のある社会の建設に取り組んでいます。若者が尊厳をもって生活でき、家族があまりに早く子どもを葬らなければならないことがもはやないような社会です。こういったことは、社会福祉事業、ユースセンター、オラトリオ、小教区、学校、里親家庭、社会教育事業を通して行われています。



ティアゴ=エリオマール・Gデ・モライス神父, SDB

ブラジル南東部のアララス（サンパウロ州）出身。2015年、サレジオ会司祭に叙階される。サンパウロにて哲学の学位、神学学士号を取得、また**広報**を専門に学ぶ。ローマの教皇庁立サレジオ大学にて若者に焦点を当てて司牧神学を学び、修士号を取得。現在、南米サウスコーン地域の**宣教促進地域コーディネーター**、また出身のブラジル-サンパウロ管区の召命アニメーターを務める。

ロゴ150 -そのシンボルについて

- フ ・ロゴの形は地球を表しています。
- オ ・「世界」は波に囲まれています。ダイナミックな動きの中で、勇気と挑戦を象徴しています。
- 一 ・中心には舟があり、第一回宣教派遣を表しています。
- ラ ・舟の帆の3つの形状はサレジオ修道会のロゴを想起させ、新たにされる宣教の情熱の炎を表します。
- ム ・3つのキーワードと150周年を表す数字書体を加え、ロゴが完成します。



150
GIVE THANKS
RETHINK
RELAUNCH

11月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

子どもを亡くした人々のために

ブラジルのために



ブラジルのサレジオ会事業にゆかりのある、
子どもを亡くした親たちのために。

息子、娘を亡くしたすべての親が、共同体に支えられ、
聖霊のなぐさめ深い現存から心の安らぎを得ますように、祈りましょう。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |